

授業科目名		担当教員名	授業実施日	※
海洋を化学する		上村大輔 教授	6月19日(火)	
学生番号		学部・学科	学年	氏名
0	3	法 学 部	1年	酒 井 理 紗
0	7			
0	0			
6	0			
-	4			

私はまず授業の題名に魅かれました。ものすごく奥が深そうで、普段理系の内容(数学、生物以外)に関わることが少ないのもあり、興味をもちました。結論から言いますと、ますます海洋については奥が深いと思いました。まだ明かされていないことがたくさんあって、自然の神秘さに圧倒され、同様に海洋の生物も身近に感じました。私は今まで人間が一番の高等生物と信じていました。しかし、海洋生物は自分を守る日焼け止めを持っていたり、ガン細胞を殺す物質があったりして、それらを生かして人間の役に立っていると知り驚きました。私は本当に数少ない生物しか知らないのも、「食べられる」とか「毒がある」という印象が強く、そんな風に私たちの生活に入り込んでいたとは思表をつかれる思いです。自分で特別な仕組みを作って自己を守ろうとする…小さい体ながら頑張っているのだと思うと、私は「人間の方が勝っている」という考えが揺らぎ始めました。人間は他の様々な生物たちのおかげで一番の高等生物という地位を保っているのではないのでしょうか。

化学記号のついた分子の図はあまり分かりませんが、フグ毒は卵巣に多いとか、ソウシハギの内臓をづたに与えると死せるなど豆知識みたいなことは覚えました。もっと多くの生物について知ってみたいです。

自然は神秘、かつ、壮大のあまり実感する所を超えるものがあります
が、周りの生物、海洋生物に目を向けてみることで、その神秘さに
一歩や二歩は踏み込めたような気がします。

生物たちの解明に携わった研究者や化学者たちには感服すると
同時に、分子を人工的に創造できるようになったことにはただ驚く
ばかりですが、その研究する姿勢は万事において模範となります。

上村教授もおっしゃっていましたが、「新しい谷へ入りなさい。そうすれば
大きな魚が釣れる」まさに的を射た言葉だと思います。

好奇心を大事にしていきたいものです。私もこの授業に好奇心を
持って参加し、自然や生物との関わりを改めて考えるきっかけとなり
ましたから。私たちはどれほど幾多の生物と共存しているのか、どんな
生物がいるのか、不思議は広がっています。